

林業福島

No. **622**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.



6

2016

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 樹木に親しむ



豊かな森林づくりを目指して

棚倉森林管理署長 坂井 康宏

日頃より、皆様方には国有林野事業の業務運営に当たり特段のご理解とご協力をいただいておりますこと、紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、棚倉森林管理署が管轄する区域であります東白川郡は、森林面積が約四万九千鈔で、そのうちの約二万七千鈔が民有林となっておりますが、その植林の歴史は古く藩政期から造林が行われ、戦後は急速に造林が進む中、昭和四〇年代からは、良質材の生産化を進めてきた林業地帯です。

このような背景もあり、民有林、国有林ともに人工林化が進んでおり、両者を合わせると森林全体の約六割が人工林となっております。そこで人工林の齢級配置を見てみますと、国有林では九齢級、十齢級に、民有林では十齢級、十一齢級に集中するなど、齢級構成に大きく偏りが生じております。

こうした中、関東森林管理局では、公益的機能の発揮に向けた森林整備を推進するため、二酸化炭素の吸収作用の保全・強化を図る観点から、間伐を適切に実施するとともに、伐期を迎えた人工林の主伐・再造林を計画的に進めることを重点課題の一つに挙げているところであり、棚倉森林管理署としても、引き続き間伐を実施することはもちろんのこと、主伐・再造林（森林の若返り）を進めるため、今年度は保護伐（小面積皆伐新植）を事業に取り入れていくこととしております。そのほかにも、低コスト化の取り組みとして、植栽本数の見直しや現地の実態を踏まえた下刈り回数の見直し、また生産性の向上と労働安全の確保を図るため列状間伐を取り入れていきます。

豊かな森林を作るといことは、森林を適切に整備し森林の持つ多面的機能を発揮させることであり、それが森林を将来の世代に健全な形で引き継いでいくことだと思います。また、林業のサイクルを円滑に回していく、そのことも大事なことでないでしょうか。是非とも福島県の森林づくりを民有林・国有林・関係機関が協力し合いながら一体となって進めていきたいと思います。

《も く じ》

とびら	フォレストミッション…………… 6
豊かな森林づくりを目指して	林道「大霊山線」…………… 7
棚倉森林管理署長 坂井 康宏 …… 1	普及指導員通信…………… 8
海岸防災林の植樹活動に関する協定締結式と植樹活動…………… 2	森連だより…………… 9
平成28年度 福島県における放射線物質対策…………… 3～4	林研だより…………… 10
山地災害防止キャンペーン…………… 5	「自然に親しむ」…………… 11
	木材市況・ふくしま東西南北…………… 12
	はなしのひろば・お知らせコーナー…………… 13

海岸防災林の植樹活動に関する 協定締結式と植樹活動

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会



協定締結式における記念撮影

平成二八年五月十四日（土）、福島市の杉妻会館において、海岸防災林の植樹活動に関する協定締結式を開催しました。今回で三回目となる締結式には、植樹活動を実施する全富士通労働組合連合会（以下、「全富士通労連」という。）の代表者、事業実施者の福島県知事（代理副知事）及びコーディネーターの当協会会長が出席し、それぞれ協定書に署

名され、東日本大震災で甚大な被害を受けた南相馬市鹿島区南海老地区の海岸防災林の再生に向けて、大きな一歩を踏み出しました。

植樹活動者代表者の板倉和寿全富士通労働組合長は「福島県内には富士通関連企業が三社あることから、地域に根差した活動ができてうれしく思います。植樹活動は、福島の皆さんの復旧、復興の歩みを進め、次の世代に緑豊かな森を残す大きな取組みです。植林地を広げ末永く活動を進めたい。」とあいさつされました。

協定締結式終了後、南相馬市の海岸防災林に移動し、現地で植樹の準備を進めていた全富士通労働連の参加者と合流し総勢一五〇人で、「とうほくとつとり苗木の里帰りプロジェクト」で育成していただいたクヌギポット苗木等を、今後無事に生育してくれることを願って丁寧に植樹しました。

海岸防災林の再生には、官民一体の持続的な取り組みが必要です。県内外問わず多くの団体が植樹活動にご参加くださいますようお願いいたします。



南相馬市における植樹活動に参加者全員の記念写真



協定書への署名

海岸防災林の植樹活動に関する協定締結状況

協定締結年月日	植樹活動の実施者	植樹面積
平成27年 3月25日	ふるさと再生、菜の花、黒松植栽プロジェクト	0.0770ha
〃	福島県森林土木建設業協会	0.1318ha
〃	緑地創造研究会苗木プロジェクト共同企業体	0.1312ha
〃	相馬市総合建設業組合	0.0800ha
〃	イオン株式会社	0.1200ha
平成28年 3月30日	NPO法人日本バーク堆肥組合	0.1188ha
〃	東北電力株式会社	0.4163ha
平成28年 5月14日	全富士通労働組合連合会	0.3246ha

平成二八年度森林林業での放射性物質対策

福島県森林計画課
福島県林業振興課

県土の七割を占める森林において、広範な放射性物質の汚染をもたらした原子力災害から五年あまりが経過しました。

その間、県では放射性物質と向き合いながら森林・林業の再生に向けて様々な取組を続けており、今年度の取組について紹介します。

○森林除染等実証事業

きのこの生産等、地域の主要な産業の場となっている森林において、効果的な森林除染の方法を検証するとともに、きのこのなどの生産のための基盤整備を促進する。

・野生きのこ等発生環境再生事業

野生きのこの等の発生環境の再生に向けて、野生きのこが発生する森林土壌等に含まれる放射性物質濃度を調査するとともに、林床整備などに

よる放射性物質移行低減効果について調査し、野生きのこの生産のための基盤整備を促進する。

・コシアブラによる土壌中の放射性物質除去調査事業

山林内に植栽したコシアブラの樹体内の放射性物質の蓄積状況及び土壌中の放射性物質濃度を経年調査し、土壌に多く含まれている放射性物質対策に資する。



コシアブラ植栽試験地

・原木しいたけ露地栽培実証事業

中・浜通りの出荷制限地域を中心に、露地栽培を目指す生産者のほだ場において、出荷制限の解除や再生産に向けた実証栽培を実施する。

また、きのこ原木林の再生に向け、平成二四年度に実証を実施した箇所においてぼう芽枝の放射性物質を測定し、原木林の整備対策に資する。

○安全なきのこ原木等供給支援事業

放射性物質による森林汚染が、きのこの原木等の需給に影響を及ぼし、きのこの原木等の価格が高騰しているため、きのこの生産者の生産資材導入に係る負担軽減を図る取組を行う団体に対し支援する。

きのこ・木炭生産者が購入する原木、おが粉、種菌等の購入経費の一部に対する支援である。

○放射性物質被害林産物処理支援事業

木材加工の工程で発生する樹皮(バーク)は、放射性物質の影響により製材工場やチップ工場等に滞留しており、工場の操業に支障をきたしている。

そこで、滞留している樹皮の処理にかかる費用を支援することにより、速やかに処理を進め、製材工場等の操業を持続させ、本県の林業・木材産業の復興を図るため、産業廃棄物処理等に要する費用等を支援する。

○森林活用新技術実証事業

森林整備を円滑に推進するため、放射性物質の影響に対処する実証的な取組を行う。

・木質バイオマス利用促進事業

製材等の過程で発生する樹皮や端材を燃料として利用するにあたり、燃焼灰が指定廃棄物に該当しない放射性物質濃度となるような樹皮や端材の混合割合を検証する。

・きのこ原木洗浄装置及び非破壊検査機器導入事業

原発事故により放射性物質の影響を受けている県内で、原木林再生のため広葉樹を伐採利用できる地域に原木洗浄装置と非破壊型放射性物質検査機器を導入し、広葉樹の利用拡大を図るための実証を行う。

・メタン発酵による木質バイオマス活用実証事業

国立研究開発法人森林総合研究所が特許出願している「木材を発酵してメタンガスを抽出する技術」を実用化するための実証プラントによる調査検討を行う。

○県産材安全性確認調査事業

原発事故に伴う風評被害を防止し、安全・安心な県産材製品の安定供給と需要の確保を図るため、県内産の原木から生産された製材品について、表面線量の測定を定期的に行い、その結果を広く周知する。



木製品表面線量測定

○森林除染技術開発事業

森林内における放射性物質の分布が、枝葉から土壌へと移行していることから、これらの動態変化に対応した新たな森林除染技術の確立に向けて、データの蓄積と解析を行う。

表土流出防止工、被覆工、及び森林整備を施工した森林において、各種の効果についてモニタリングを行い、空間放射線量率や放射性物質の動態変化についてデータの蓄積と解析を行う。

また、落葉等有機堆積物除去による森林環境への影響調査を行う。



木柵工等による土壌流出抑制効果調査



非破壊型放射性物質検査機器

このほか、公的主体による森林整備と放射性物質対策を一体的に推進し、多面的機能を維持しながら森林の再生を図る「ふくしま森林再生事業」や販売される農林水産物等の安全性を確保するため、緊急時モニタリング検査を実施するとともに、その結果を消費者や生産者、流通業者等に迅速かつ的確に公表する「農林水産物等緊急時モニタリング事業」を行っています。

山地災害防止キャンペーン

福島県森林保全課

山地災害の危険信号を見逃すな!
8つの危険信号に注意して下さい。

山地災害が起こる多くの場合、山の斜面や川の流れをよく観察してみると、事前に危険信号と察知れる変化がキャッチできます。特に次の8つの危険信号に注意して下さい。

- 1 川がにごった**
川が濁り、木の根が露出するなどの場合
- 2 水位が下がった**
雨が降っていないのに水位が下がった
- 3 亀裂が走った**
山の木が倒れたり斜面が崩れた
- 4 石が落ちてきた**
山の斜面から石が落ちてきた
- 5 わき水が止まった**
今まで出ていた湧き水の量が止まった
- 6 わき水が増えた**
今まで出ていた湧き水の量が急に増えた
- 7 井戸水がにごった**
普段飲んでいる井戸の水がにごった
- 8 地鳴りがする**
地鳴りや音が聞こえる

危険信号をキャッチしたら!

1 すぐ避難
危険を感じたり、伝言などで通報があったら、早めに指定された場所へ避難しましょう!

2 すぐ通報
災害が起きたら、すぐに119番か112番へ通報しましょう!

3 あぶない!
災害の危険がある場所に近づかないようして下さい!

山くずれなどのおそれがある箇所では、テレビなどの気象情報に注意しましょう。

災害が起きたら、避難場所や避難経路について詳しくお尋ねください。避難所が指定されています。

林野庁では、都道府県や市町村とともに、五月二〇日から六月三〇日までの期間に、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは、近年、山地の崩壊や土石流・地すべりなどの山地災害が多発し、人命・財産に甚大な被害をもたらしていることから、ポスターの掲示やホームページなどの広報活動や、山地防災パトロール等を行い、地域住民の皆様の防災意識の高揚に資することを目的に、本格的な梅雨期に入る前の今の時期に毎年行われています。

今年の山地災害防止標語は、「養おう 山の異変に 気づく目を」です。日本は、険しい山が続く複雑な地形をしており、川の流れは狭く、急流が多い特徴があります。また、火山灰土に広く覆われているなど多くの箇所脆弱な地質であることから、梅雨前線や台風などの集中豪雨により、山崩れや土石流、地すべりなどの山地災害が発生しやすい状況にあります。さらに、近年では、地球温暖化の影響による異常気象の発生頻度も増加し、局所的な豪雨による大規模な山地災害の発生の恐れも高まっております。

近年の全国的な山地災害の発生状況を見ると、毎年一、〇〇〇件以上、被害額も四〇〇億円以上となっております。最近発生した大規模な災害としては、昨年九月に茨城県や栃木県を中心に甚大な被害をもたらした「平成二七年九月関東・東北豪雨災」

が記憶に新しいところです。福島県では、このような山地災害から県民の人命・財産を守るため、山地災害の危険がある箇所を調査し、危険度の高い箇所について優先的に治山事業を実施し、災害の未然防止に努めております。山地災害の危険のある箇所は「山地災害危険地区」として指定しております。民有林については福島県のホームページの「ふくしま森マップ」で、国有林については関東森林管理局のホームページから閲覧可能となっておりますので、事前に、地元市町村の山地災害危険地区を確認しておいていただければと思います。

また、県では山地防災ヘルパーを平成二八年三月現在で八七名認定し、山地災害の発生が予想される梅雨や台風時期には、県内各地で山地の監視活動を行っていただいております。さらに、昨年、県は福島県森林土木建設業協会と「山地災害防止等支援活動に関する協定」を締結し、山地災害が発生した場合、または発生する恐れがある場合の調査、点検等について協力をいただくこととしております。

山地災害はいつ何時起きても不思議ではありません。また、完全に予測することも不可能です。どのようなときも、常に災害の危険があることを心に留めておき、雨がたくさん降った時には、危険信号を参考に、特に家の周辺で変わったことが起きていないか注意してください。

フォレストミッション

地球と家族を考える会 羽生 拓希

ふくしまの家KUMIKO木の家講座《森の木が家になるまで》―通称フォレストミッション―は今年で五年目になります。

フォレストミッションとは森プラス使命。妙な造語ですが木の家造りに携わる者として素材を産み出す山のことを伝えねばならないの思いから、そう呼んでいます。

そもそもは福島県による「ふくしまの地域活性化支援事業」により福島県産材でのモデルハウスKUMIKOができたことが始まりです。KUMIKOは杉を沢山使っただけの家ではなく、林業の出口となることを目指して考案された家です。地場産材で家が造れば循環型社会を形成する一助となる。住む人の心身も杉の力で健やかに。新建材の多用によるシックハウスや、終末期に産業廃棄物となる家を減らせる。巡りめぐって地球環境に良い。そんな諸々を伝えたい。なにより山の、林業の、現状を知って欲しい。それがフォレストミッションを始めたいです。

ただし、あまり大上段に構えては聞く耳を塞がれてしまいますので、山に親しんでいただくのも大切な目的です。



まず四月は里山に咲く早春の花々の魅力を、五月は木々の芽吹きの魅力十分に味わっていただきます。案内人は森の案内人でもある樹木医です。

そして、深緑の六月は、森林総合研究所からセラピストでもある農学博士を迎えて森での癒しの時間を満喫していただきます。

七・八月はお休みし、九月は千年の鎮守の森で天然林についてお伝えします。

十月は「山



の命の巡りを見ようI」と題し、郡山市森林組合の案内で植えて育てて伐ってまた植える、山の命のサイクルを見ていただきます。写真は植栽後三年生の造林地と伐採の現場を見る参加者です。



そして十一月「山の命の巡りを見ようII」は、山から伐り出された樹木が福島県中央木材市場で、原木から製品になる過程を福島県木材協同組合連合会の案内で見てください。併せて、木の構造や特性、建築に占めるコストや流通についても教えてください。



最後の十二月は樹木、特に杉がどのように心身に働くか、それが地球環境とどう関わっていくのかを、農学・工学・学術博士、又は地場産材での家造り先駆者の建築家等々、毎年その道のエキスパートをお呼びし

て教えていただきます。

一年を通じて豪華な講師陣をお招きできるのは一般財団法人福島県林業会館のフォレスト助成金事業の応援のお陰です。



こうして月一回ずつでも、七回全てに参加した方は徐々に山を身近に感じるようになり、日本の林業の置かれている現状についてほんの少し知ることとなります。

親・子・孫と三代に渡って育てられる気の遠くなるような時間軸の仕事のこと。外材との経済的な競争のこと。大変な手間をかけて材木となること。どれもが目からウロコの連続で、感動したり考えさせられたり。回を重ねるに従い、参加者の目や発言が変わってくるのを見ると嬉しくなります。

定員は十名でミッションの達成は砂粒のようですが、砂粒の点が少しずつでも増えていくことで、線となり、やがては線が面になることを夢見て続けていきたいと考えています。

※講座は一般財団法人福島県林業会館のフォレスト助成金事業及び福島県緑の住宅普及支援事業等の支援策を活用して取り組んでいます。

林道「大^{だい}霊^{りょう}山^{ぜん}線」

県北農林事務所 主査 木村 充

大霊山線は、伊達市の東部市町村境、霊峰霊山の西側に位置し、森林の適正な整備・保全や林業経営の効率化を推進する骨格的な林道として、総延長7,359mが計画されています。

平成8年度に広域基幹林道（防火林道）の2車線林道として国の事業採択を受け、平成9年度より事業着手し、起点から5,159mは2車線で作設、平成21年度に諸般の状況変化及び林道開設効果を早期に発現させるために全体計画を見直し、終点位置及び2,200m区間を1車線施工とする変更を行っています。

本路線の特徴ですが、名称のとおり計画地周辺には国指定史跡名勝及び県立自然公園の「霊山」があり、行楽の基点として霊山こどもの村、りょうぜん紅彩館、湧水の里、各登山道等の施設が整備され、新緑や紅葉の季節を中心に多くの利用があるため、これら周辺施設への連絡道としての機能も期待されています。



大霊山線から望む霊峰「霊山」



大霊山線見晴台（霊山ライオンズクラブ設置）

また、その他の特徴として、防火林道としての機能があります。伊達市（旧：霊山町）では昭和46年4月に約30haの林野火災が発生し、自衛隊の派遣要請をした経緯があり、隣接する各町とともに林野火災特別地域に指定されたため、林道敷を含めた防火帯としての機能や林野火災発生時の消火活動を円滑にできる機能を備えています。主な施設として、起点から約1km付近にヘリポートが1カ所設置してあり、霊山の登山者からは「宝寿台」での眺望の他、航空写真等でも確認することができます。その他、湧水の里駐車場をはじめとして路線内に防火水槽を3カ所も設置しています。



ヘリポート（DAIRYOZENの文字標示）



「湧水の里」駐車場の防火水槽

霊山は行楽シーズンに大変な賑わいを見せますが、できるならばこれらの防災施設が使われることの無いよう、入山者の皆様にも、防火に対する意識を高めていただき、山火事の未然防止に御協力をお願いします。

紹介してきたように多くの機能を持った大霊山線ですが、いよいよ完成が近づいております。全線開通により、森林整備の推進、周辺施設への連絡道としての効果が発揮され、地域の活性化が図られることを期待しています。

次世代を担う児童への森林づくり 活動の意識醸成に向けて

■いわき農林事務所

林業普及指導員 加藤 修

福島県の森林は、県土の約70%を占め、豊かな自然環境と良好な生活環境を生み出しています。県民共有の財産であるこの豊かな森林を守り育て、次世代に引き継ぐため、森林環境税を活用して、「県民一人一人が参加する新たな森林づくり」に取り組んでいます。

今回、次世代を担う小学生に対し森林・林業に対する理解と木材の特性を体感する機会を提供するとともに、平成30年に本県で開催される全国植樹祭のPR活動を行いましたので、その取り組みを紹介します。

始めに、田人林業研究会*を講師に招き、いわき市立綴小学校の4年生を対象に森林や林業の役割と木材の利用についての話と、同校の緑化活動で使用する木製プランターの製作指導を行う「木とのふれあい創出事業出前講座」を実施しました。



田人林業研究会会長から木工工作活動の指導を受けました。

参加した児童たちは講師の話に熱心に聞き入り、森林に対する理解を深めるとともに、プランターづくりを通して木の感触や香りを感じとってくれたようでした。

※田人林業研究会とは、いわき市田人町で活動する林家により昭和51年2月に結成され、今年で結成40周年を迎えた県内で最も古い歴史を持つ林業研究グループで、田人地域の振興のため様々な活動に取り組み、「磨丸太」を中心とした田人材の生産を行うほか、地元小・中学校の学校林の森林整備や木工工作活動の指導のほか、オリジナル木製ボールペンの製作なども行っております。

次に、同小学校の5、6年生を対象に「苗木のスクールステイ」*を行いました。

事前に打ち合わせを行い、普及指導員より児童にも理解できるよう「森林の役割と木材の特性」を話すことを提案するとともに、学校からの要望を踏まえ「育てたドングリの苗が平成30年の全国植樹祭に植栽されること」を説明することとしました。

当日は、普及指導員から児童に対し、天皇・皇后両陛下がご臨席される全国植樹祭の説明や、児童たちが育てたドングリの苗が植栽されることを説明すると、児童からは驚きの声があがりました。また、森林や木材が持つたくさんの役割が、私たちの生活に重要であることを学んだ後、児童たちは大切そうにドングリを植え、芽が出て育つことを楽しみにしていました。

※「苗木のスクールステイ」は、子どもたちの森林づくりの関心を高めるとともに、森林や自然環境に対する理解を深め、本県の豊かな森林を未来へ引き継ぐことを目的に苗木を育ててもらい、その一部を全国植樹祭の苗木として活用するものです。

今後、次代を担う子供たちに、県民参加の森林づくりに対する意識の醸成を図るため、森林や木材と親しむ機会を積極的に提供していきたいと考えています。



児童たちが植えたドングリに水やりを行いました。



森連だより

第65回通常総会
開催される



本会の第六五回通常総会は、去る五月二十六日福島市杉妻会館において開催しました。
秋元公夫代表理事会長の挨拶に続いて、系統利用優良組合・永年勤続役職員の表彰と本会退任役員へ感謝状の贈呈が行われました。
議長には、武藤寛会津北部森林組合代表理事組合長が選出され、議事に入りました。
二七年度の決算では様々な課題を抱え

つつも、事業量の確保拡大を図るとともに、経費の節減に懸命な努力の結果、剰余金を計上することができ、満場一致で議案が承認されました。

二八年度の事業計画について、総括としては、第四次にわたり実行した経営改善計画が終了し、迎える最初の事業年度であり、安定した揺るぎない組織基盤体制を構築していく上で、最も重要な一年であるため、今一度自体を見直し会員各位に信頼され十分に応えることのできる組織として、基盤体制の整備、人材育成の強化や長期ビジョンを正確かつ着実に捉えることを目指すこととしました。

また、昨年十月に開催された「第二八回全国森林組合大会」では、森林・林業・山村未来創造運動「次代へ森を活かして地域を創る」を最優先課題として取り組んでいくことが議決され、本年度が新たな系統運動の初年度となります(運動期間は二八・二九・三〇年度の五年間)。

連合会としては、このような状況を踏まえ、東日本大震災の復興に欠かせない木材を安定的に供給する体制づくりを目指すこととしました。このため、役員一人一人が自覚と責任を持って職務遂行に邁進していくことが承認されました。各部門の事業計画は次のとおりです。

◎指導部門

① 新系統運動方針「J Forest 森林・林業・山村未来創造運動」

② 「次代へ森を活かして地域を創る」の推進

③ ふくしま森林再生事業による森林整備と森林除染の推進

④ 森林整備担い手対策基金事業の推進

⑤ 緑の雇用現場技能者育成対策事業の取りまとめ、指導

⑥ 福島県森林認証普及推進事業の取り組み

⑥ 指導監査の実施と事後指導の実施
⑦ 森林測量GPS機械の貸し付け
⑧ 原発事故関連連損害賠償請求の取りまとめ

◎販売部門

① いわき木材流通センター、会津共販取扱量の増大及びサテライト市場の実現による原木供給体制の構築

② 間伐材の有効利用と販売体制の強化

③ 合板材等の直送化の推進

④ 森林組合木製品、林産物の販売拡大

◎森林整備部門

① ふくしま森林再生事業・森林除染関連業務等の拡大

② 職員の資格取得と森林組合支援体制づくり

③ 林道・作業道等測量設計業務の確保

④ 森林保険の加入促進と損害調査の迅速化

⑤ 各種保険の加入促進

⑥ 異業種との連携強化

◎購買

① 森林整備関連資材取り扱いの販売強化

② しいたけ原木販売事業量の確保

③ 優良苗木の販売事業量の確保

④ 生活関連物資の販売強化

⑤ 森林組合事業資金の確保と貸し付け

⑥ 制度資金の普及と貸付業務の迅速化

また、総会においての表彰者は次のとおりです。

「表彰者名簿」

○平成二十七年系統利用優良組合

販売部門 会津若松地方森林組合
購買部門 相馬地方森林組合
森林保険部門 いわき市森林組合

○感謝状贈呈
早川 英二

○功労者表彰
永年勤続役員 (勤続十二年以上)

石井 良夫 (東白川郡森林組合)
山田 庄一郎 (双葉地方森林組合)
石田 宗昭 (双葉地方森林組合)

永年勤続職員 (勤続三十年以上)
高橋 好弘 (飯館村森林組合)

永年勤続職員 (勤続二十年以上)
松本 正弘 (ふくしま中央森林組合)
佐藤 健 (ふくしま中央森林組合)

本田 嘉紀 (会津若松地方森林組合)
舟田 照夫 (会津若松地方森林組合)
鈴木 良一 (会津若松地方森林組合)

本間 亨 (相馬地方森林組合)
石橋ひろみ (相馬地方森林組合)

永年勤続技術班員 (勤続五年以上)
町田 雅平 (福島県北森林組合)
吉田 幸弘 (田村森林組合)

高縁 武文 (東白川郡森林組合)
石井 英治 (東白川郡森林組合)

芳賀美知雄 (東白川郡森林組合)
浅見 雄太 (東白川郡森林組合)

佐藤 文夫 (西白河地方森林組合)
高田 孝英 (会津若松地方森林組合)

鈴木 一夫 (会津北部森林組合)
遠藤 秋男 (会津北部森林組合)

長谷川 光弘 (会津北部森林組合)
永島 智之 (会津北部森林組合)

三瓶 栄一 (只見町森林組合)
森谷 光一 (相馬地方森林組合)

団体のページ



だんごさし

協議会が活動する南会津町館岩地区は、関東圏からのアクセスも良く、尾瀬への入口にもなっていて、一年を通して多くの観光客が訪れます。また、豊富な森林資源を用いて、グリーンツーリズムや教育旅行、冬期間は、スキー教室等の受け入れも盛んに行われてきた地域です。

林研だより

地域に息づく山村文化を
伝えていきます

館岩地区林業振興協議会

鈴木秀明



景観整備

協議会は平成五年二月に林業関係者十二名で結成しました。設立当初は豊富にあるカラマツ材を使って木製花瓶など木工品の開発と販売に取り組みました。

平成十六年からは「会津高原たかつね教育旅行誘致協議会」の設立に参画し、環境教育と連動した森林整備体験、炭焼き体験などをメニュー



集合写真

化して関東圏の小中学生を積極的に受け入れていきます。現在では活動の中心的なものとなっています。

協議会会員の高齢化に伴い、平成二五年四月、多様化する協議会活動に対応するために、地元の一〇歳代から三〇歳代の林業後継者十名により青年部を設立しました。

青年部では、スポーツサークルなども巻き込み、毎年、刈払機やチェーンソーの使い方、目立てについて研修するとともに、道路沿線の刈り払いや景観林整備も行っています。

青年部員が協議会の中心的構成員となつて活動する日もそう遠くではなさそうです。

館岩地区では、小中学生を対象とした林業体験活動が盛んに行われてきました。さらに幼い子供たちが森林や山村文化に触れることは、森

林・林業への理解を深めるためには大切な活動であるとの認識から、幼い子供たちへの指導の経験を持ち、森林の大切さに共感を持っていた地元女性八名が立ち上がり、平成二七年四月に女性部を設立しました。

女性部では、地域で古くから行われているきのこの植菌から収穫まで行う原木栽培体験や、森林公園でどろんどろん拾いを行い、ポットに蒔き幼稚園で育てられた苗木を自然に帰す取り組みも行っています。また、今も伝わる小正月の行事「団子さし」も行っています。

このように、地域に当たり前にある森林、そしてそれを利用しながら息づいてきた山村文化、それを伝えることによつて、地域を愛し、守り育てる意識が園児やお父さん、お母さんに伝えられたらと思ひ取り組んでいます。



出前講座

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 | 15 |

比良林のサラサドウダン

樹木医 鈴木俊行



「比良林のサラサドウダン」は、南会津郡只見町大字大倉字余名沢山地内に生育している。只見町大倉は、JR只見線只見駅から国道二八九号を東に約一五キロ、車で三〇分程度の場所にある。生育地の周辺は、比良林公園として池や流れ、ベンチ、四阿などが整備され、サクラなども楽しめる憩いの場所となっている。

本樹にまつわる故事としては次のようなものがある。「治承四年（一一八〇年）、源頼政が以仁王を奉じて平家討伐の兵を挙げたが、戦いに敗れ以仁王が越後に都落ちした際、咲き乱れる風鈴ツツジを深く愛でられ、しばしの暑さを凌がれた」と伝えられ、以来里人は本樹を霊木として愛護し今日に至っている。また、以仁王が越後に逃れる際に、尾瀬から持って来たものを植えたという伝説も残っている。

本樹は、比良林公園内に生育

し、周辺はアカマツや落葉樹で囲まれていて北側は林がせまっている。また、根元周辺はぐるりと縁石に囲まれ、縁石の内側は芝生が張られている。

本樹の樹種は、ツツジ科ドウダンツツジ属のサラサドウダン（更紗満天星）で、別名フウリンツツジと呼ばれている。北海道西部から九州の冷温帯・高山帯に自生する落葉低木・小高木である。標高の高い山地の尾根や岩場に自生し、庭木や公園などに広く植栽されている。

本樹の形状寸法は、樹高三・五メートルで、根元から数本の幹に分かれ、株立状に四方に広がり、さらに多くの枝を伸ばし巨大な円状のかたまりをつくり上げている。幹周は計測不可能で、現地解説板には根元周囲四・〇メートルと記載されておりサラサドウダンとしては珍しい巨木である。枝張りには東西一四・二メートル、南北一八・六メートルと日照の関係からか東西の枝張りが小さいが均整のとれた円形を呈しており、その巨大さには驚かされる。このような巨大なサラサドウダンは非常に珍しく、昭和三六年三月二二日に県指定天然記念物に、昭和五八年二月十七日に県の緑の文化財に登録され、樹齢は一〇〇〇年とも言われている古木である。

本樹の形態は、豪雪地帯の形態を呈しており、親株と思われる中心部



のサラサドウダンは、根元から数本の主幹に分かれて伸長し、雪の重さで枝が地表面に接し、その接した部位から発根して生育地を広げていったものと考えられ、現在は株立状のサラサドウダンが十数株生育し巨大な群生をつくっている。

花は六月で、淡黄色に紅色の筋が入り、先端は淡紅色を帯びた鐘状の花を総状に多数吊り下げる。花の咲き具合は、その年によつて少ない年と多い年があるようだが、かれんな花を咲かせる樹齢一〇〇〇年ともいわれる本樹は地域のシンボルとして親しまれており、開花期には多くの観光客でにぎわい、大きく枝を張った巨大なサラサドウダンは壮観で見事である。

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(3月15日現在)

(単位: m当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)	0	9 (8~9)	0	9 (8~10)	0
		10~13		並	スギ	11 (10~13)	0	9 (9~9)	0	10 (9~11)	0	10 (9~13)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	12 (12~13)	0	12 (12~12)	0	10 (9~12)	△1	12 (9~13)	0
				並	ヒノキ	13 (11~14)	△1	(0~0)	0	15 (15~15)	0	14 (11~15)	0
		6.00	並	スギ	17 (15~19)	0	10 (10~10)	0	15 (14~16)	0	15 (10~19)	0	
			並	ヒノキ	25 (24~25)	0	(0~0)	0	21 (17~25)	0	23 (17~25)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	10 (9~12)	△1	12 (11~13)	0	10 (9~11)	0	11 (9~13)	0	
		4.00	並	アカマツ	9 (8~10)	△1	(0~0)	0	9 (9~10)	1	9 (8~10)	0	
		1.80	並		6 (5~7)	△1	(0~0)	0	7 (7~7)	0	7 (5~7)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	29 (27~30)	0	29 (27~30)	0
並				米マツ	35 (35~35)	0	33 (33~33)	0	30 (29~30)	0	32 (29~35)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	28 (27~28)	0	28 (27~28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	34 (28~39)	0	34 (28~39)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	6 (6~6)	0	(0~0)	0	5 (5~5)	0	6 (5~6)	0	
			並	広葉樹	8 (8~8)	0	(0~0)	0	7 (7~7)	0	8 (7~8)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(~)		7 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(~)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	(~)		10 (9~11)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

二月の原木市場への入荷状況は、前月比三割増(前年比九割減)の二九、三〇立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比七割増(前年比六割減)の二九、八五〇立方メートルとなっている。
 三月の価格については保合いとなっている。

「何故、こんな北の果ての地に会津藩士の墓があるのか？」その答えを確認するために私は其処を訪れたのですが、答えの詳細については、(皆さん自身に旅して知ってもらいたいので) ここでは書かないこ



「最果ての墓碑」

会津農林事務所 林業課 大竹城二

今から二〇数年前の大学三年の夏休み、未踏の地であった北海道を旅しようと決心した。何気なく地図を見てみると、北海道北端の孤島利尻島に、「会津藩士の墓」なるものがあることに気付く。「よし、此処へ行ってみよう」。二週間かけて北海道を一周する計画を企て、私は、周遊券片手に寝袋を担いで会津を発つた。

ただ、幕末期に藩命に従って北方に配備された会津藩士の多くが、この最果ての地で命を落としたこと、また、そのことに心を痛めた時の藩主が、磐梯山から石を切り出して船で運び、その石で作られた藩士の墓の全てが、会津の方角を向いて立っているという事実だけ記しておきます。

「たんぼぼや 会津藩士の墓はここ」は、故松平勇雄福島県知事が、藩士の墓を訪れた際に捧げた句のことです。



写真は会津藩士の墓と利尻富士

表紙の写真



「樹木に親しむ」

第12回ふくしま森林・林業写真コンクールで最優秀賞（福島県知事賞）を受賞した根本晴夫さん（白河市）の作品。
撮影場所：南会津町高清水自然公園

はなしの
ひろば
「貧」

井上有一の「貧」というひと文字に出会ったのは、二三年前郡山市立美術館で開かれた遺作展「大きな井上有一」だった。その遺作展の一室は、見渡す限り大きな和紙に描かれた「貧」で埋めつくされていた。ただただ圧倒された。井上有一の固定観念にとらわれない、奔放で自由なひと文字は、観る者の肝を一気にわしづかみし、瞬時に井上有一の世界に引き込んでいく。

その「貧」の背景にあるのは、小学校教師当時の東京大空襲（一九四五年）での壮絶な蘇生体験だったという。その後一九五四年、家のボロ襖に「貧」という字をなぐり書きをして以来、生涯六六六の「貧」を残している。その六六六の「貧」には、ひとつとして同じものがない。笠をかぶって歩き出している貧、楽しい貧、さびしい貧、と様々だ。その時々々の命の動きが筆に表れている。井上有一が書くひと文字は、書き順に関係なく、意のままに書きたいところから筆をおろしていったという。それらのひと文字は、書でもあり、美術でもあり、海外からも高い評価を受けたが、「貧と貧困は別。人間は今、貧のスパラシサに気がつかなければいけない。」と、生涯「守貧」の覚悟で質素に暮らしたという。異端の一匹狼だった。

命日の六月十五日、前日からの大雨は一匹狼の涙に違いないと「狼涙忌」とつけられた。井上有一の書は、生誕一〇〇年の今もなお、その書に宿る魂と研ぎ澄まされた貧の精神が、観るものをくぎ付けにする。「いつさいの技術をすて、素朴な人間になろうではないか」六九歳の生涯を閉じた井上有一の言葉に今、素直に耳を傾けてみる。六月十五日には「貧」を心に焼き付けながら、自分の清貧な生き方とはどんなものなのか、自問自答してみる。（都）

編集	福島県内四森林管理署
編集	福島県森林・林業・緑化協会
編集	福島県森林組合連合会
編集	福島県木材協同組合連合会
編集	福島県農林種苗農業同組合
編集	ふくしま緑の森づくり公社
編集	森林総合研究所福島水源林整備事務所
編集	福島県森林・林業・緑化協会
編集	（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人	相馬 雅俊
発行	陽光社印刷株式会社
	（定価 一〇八円）

お知らせコーナー

苗木のホームステイ 参加者募集

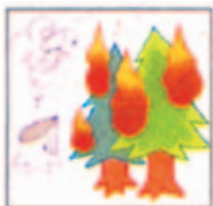
- 平成30年春に福島県南相馬市で開催される「第69回全国植樹祭」等で植栽する苗木を、企業・ご家庭などで育てていただける方を募集します。
1. 対象 福島県内にお住まいの方、企業等の法人または団体
 2. 応募方法 参加申込書に必要事項を記載し、県農林事務所宛に、郵便、FAXまたは持参により提出してください。参加申込書は、「第69回全国植樹祭ふくしま2018」ホームページからダウンロードすることができます。
 3. 応募締切 平成28年7月29日（金）
（苗木の本数に限りがありますので、先着順に受け付けます。）
 4. お問い合わせ先 福島県農林水産部全国植樹祭推進室（TEL 024-521-8657）

第13回ふくしま森林・林業写真コンクール 作品募集

- 森林の大切さとそれを支える林業の重要性について広く認識していただくため、森林・木材との関わりや森林整備作業などをテーマにした作品を募集します。
1. テーマ 下刈・間伐等の森林整備作業、木材の利用、特用林産物（炭焼き、きのこ栽培、漆等）、里山風景、森林レクリエーションなど福島県内の森林・林業に関するもの
 2. 応募資格 アマチュアで、作品は福島県内で撮影した自作の未発表の作品
 3. 作品 カラープリント、四ツ切・ワイド四ツ切（デジタル可）
 4. 応募締切 平成28年9月16日（金）（当日消印有効）
 5. お問い合わせ先 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会管理課（TEL 024-521-3245）

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
- または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトング
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトングによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トング
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

<p>野生獣類から大切な植栽木を守る</p> <p>ヤシマレント</p> <hr/> <p>ヤマビル対策に</p> <p>マリックスター(駆除剤)</p>	<p>蜂さされ防止</p> <p>ハチノックL(楽退治) ハチノックS(携帯用)</p> <hr/> <p>タケを駆除する</p> <p>クロレートS</p>	<p>大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤</p> <p>ヤシマスミバイン乳剤 ヤシマスミバインMC グリーンガードNEO パークサイドF ヤシマNCS モリエートマイクロカプセル マツグリーン液剤2 マッケンジー</p>	<p>くん蒸用生分解性シート</p> <p>与作シート(茶・白) (折りたたみ式 専用キャリーバック使用)</p> <hr/> <p>竹・ササの防除に</p> <p>クロレートS粒剤</p>
---	---	---	---



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

<p>チッパシュレッダ</p>  <p>竹もOK! SR3100 出力 18.4kW (質量1,330kg) 水冷ディーゼル 967634301 ¥3,580,000(税抜)</p>	<p>ハンマナイフモア</p>  <p>ZHM1550 排気量 27.5cm³ (質量1600kg) 967081901 ¥5,860,000(税抜)</p>	 <p>ZHM800 排気量 20cm³ (質量230kg) 967088901 ¥748,000(税抜)</p>
---	---	--

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1